

横浜歌人会会報

104*報

横浜歌人会会報第104号

目次

- * 01 文学散歩・即詠歌会報告
飲茶と歌と少しの議論と…千々和久幸
同じ時のなかで…高橋みずほ
ロイヤルウイングに乗って…藤田絹子
詠草
- * 04 観月会報告
概要&詠草
- * 06 新入会員自己紹介…新田由美子/長野道子 横浜エッセイ…荒川とよ子
- * 07 会員歌集紹介…高澤志帆 中川宏子歌集『右耳の鳩』/綿貫昭三 綿貫昭三歌集『思ひ出の樹』
- * 08 新会員のご紹介/告知板

飲茶と歌と少しの議論と

—横浜歌人会第2回文学散歩から

代表委員 千々和久幸

横浜歌人会第2回文学散歩・即詠歌会は5月30日(水)、『ロイヤルウイング』のクルージングとして開催された。海の上を歩いて歌を詠もうと洒落たものだ。コースは横浜大棧橋を正午出航してから1時間45分の横浜港周遊。参加者は平日でしかも七〇〇〇円(飲み物は別途)という参加費にもかかわらず、三十四名と盛況であった。

『ロイヤルウイング』は二八〇〇トンで定員六三〇名、この日横浜歌人会は一室を借り切ったのランチクルージングで、飲茶ランチを愉しみながらの懇親と苦心の歌づくり。1時間45分の所要時間はあっという間に過ぎてしまった。

歌会は大棧橋の傍の「波止場会館」、提出されたホヤホヤの即詠歌を事務局がまとめ、山本登志枝さんの手際よい司会で2時30分から4時30分までしっかりお勉強。歌評は席順に発言したあと、さらに第二評者の塩野崎宏、中川佐和子、小林勝、藤田絹子、佐波洋子さんが補足とため押し(?)で大いに盛り上がった。一通り歌評がすんだところで、「吟行会の意義」について質問があった。吟行(即詠)と銘打つ以上、作品は場所と題材にどの程度制約されるかというのが実作を見ての疑問点だった。

この問題、ルーズに考えればその場所で歌ごころが触発されたものならどんな作品でも構わないということになり、一方吟行(即詠)を文字通りの意味に限定すれば、場所・題材には自ずから制約—今こ

こでしか歌えない作品—があるとする。卑近な問題だけに議論が百出したが、残念ながら時間切れとなった。さて皆さんの結社などでは吟行会をどう考えられているのか、第3回の文学散歩・即詠歌会の際には横浜歌人会の意見を統一して臨みたい。それもこれも、実り多き一日であった。

* * *

▼第2回文学散歩・即詠歌会の概要▲

横浜歌人会の文学散歩・即詠歌会が平成24年5月30日(水)に行われました。

この取り組みは今年で二回目となります。文学散歩の内容は、「ロイヤルウイング」に乗船し、横浜港のクルージングでした。

○日時 平成24年5月30日(水)

午後12時～午後4時30分

○会場 ロイヤルウイング(横浜港クルージング)

波止場会館(即詠歌会)

○参加費 七〇〇〇円

○内容

・横浜港クルージング 午後12時～1時45分

午前11時に横浜港大さん橋国際客船ターミナル(通称・大さん橋)に集合し、ロイヤルウイングに乗船しました。参加者は34人。

・即詠歌会 午後2時30分～4時30分

即詠歌会は、大さん橋の入口近くにある「波止場会館」で開催しました。

会場はみなとみらい地区が一望できる場所で、司会は、山本登志子さん。

同じ時のなかで

●文学散歩・即詠歌会報告記 高橋みずほ

横浜港大さん橋国際客船ターミナルの建物は、ウッドデッキと屋上の芝生からできている。ふと足裏が和らぐところから、緩やかなスロープがターミナル2階の入り口へ伸びる。そこは穏やかな湾の波間に開いた薄い口のように、吸い込まれるように軽やかに歩が進む。

「ロイヤルウイング」のクルーズで、飲茶の昼食をとりながらの文学散歩。少し早めの集合時間に待ちくたびれて、とっぴりと眠り始めた人を起こして乗船する。

ゆつくりと飲茶は運ばれてくる。窓の向こうに港の倉庫群、クレーン、ベイブリッジ。話をしては笑い、いつしかみな窓を見詰めている。薄曇る東京湾には赤、青、緑…、色とりどりのタンカーが浮かぶ。不透明な海面のおく向こうに、つながる相手国がある。

ピアノの生演奏を聴きながら、全身が満たされてゆく。食事が終わると散り散りにデッキへ出て、風に吹かれて言葉をつむぐ。白い風車が見え、大さん橋に近づくとみな慌しくなって、短冊に歌を書き込み、一息つく。

船を降り、象の鼻パークにある第二会場「波止場会館」に移動する。会場は明るくて、窓から赤レンガ倉庫、象の鼻防波堤、ターミナルの芝生の緑が見える。歌会が始まる。同じ時のなかで生まれた歌に出会う楽しさ。そこに詰められた人の思い。港の穏やかなたゆたいたいから生まれる言葉、つながりが、ゆつくりと育まれてゆくような気がする。

ロイヤルウイングに乗って

●文学散歩・即詠歌会報告記 藤田絹子

第一回文学散歩がとても楽しく有意義な会であったので、次回も参加しようと思い決めていた。

二回目の今回は、横浜港を巡る海上散歩、私にはこの日のためにとっておいたような初めての横浜港クルージングであった。十一時集合の時間より大部早目に横浜大さん橋国際客船ターミナルに到着。すでに先着の方々がいられた。

うす曇りの穏やかな天候に恵まれ、みなとみらい地区、ベイブリッジ、本牧埠頭、磯子のコンビナート等、海上ならではの横浜を一望できた。船内「ラベンダー」での飲茶ランチもそこに、心は即詠のことでいっぱいであった。ひたすら苦吟して一首が完成した。片や男性グループはアルコールを飲みながら歓談されて、余裕綽綽、いつ短歌を作られたのだろう。「男三人歌話を肴に酒酌めば港クルーズ終えてしまえり」(長野義和)と詠まれているので「歌話を肴」にしていられたのだ。即詠に不慣れ、苦手意識を克服せねばと思ったことだ。

同じ時空を共有して詠んだ三十四首は、臨場感があり、クルージングランチということもあって、昂揚感が伝わる作品が多かったように思う。

歌会のもち方も定着し、山本登志枝さんのソフトで手際よい司会で、スムーズに進行した。質問や即詠以外の短歌の問題を話し合う時間がとれて中身の濃い歌会となった。小結社に所属する私にとってエキサイティングで楽しい会であった。

企画運営にあたられました委員の皆様は心より感謝申し上げます。

横浜歌人会総会・新春歌会のご案内

—平成25年1月27日(日) 開催

横浜歌人会の総会と新春歌会を次のとおり開催いたします。歌会では、事前に詠草を送りし、参加者で活発な討論、交流を行っています。会員各位のご参加を心よりお待ちしております。

当日は、総会・新春歌会とあわせ懇親会も予定しています。お時間の許す範囲で、それぞれにご参加ください。(12月中旬に会員の皆様に往復ハガキでご案内いたします。)

○日時 平成25年1月27日(日)

午後1時～午後7時

○会場 馬車道十番館

中区常盤町5-67(関内駅北口徒歩3分)

電話 045-651-2621

○内容

・横浜歌人会総会(午後1時～午後2時)

・新春歌会(午後2時～午後5時)

・参加費 二〇〇〇円

・懇親会(午後5時～午後7時)

・参加費 五〇〇〇円

※新春歌会詠草について

平成25年1月15日(火)までに、12月中旬にお送りする往復ハガキに記載し返信ください。

詠草—文学散歩・即詠歌会

平成24年5月30日(水) | ロイヤルウイング&波止場会館

- ・野毛の丘に立つ学舎を思うとき海の風車はゆつくり回る 日向輝子
- ・象の鼻でアイナメ釣りの老人は釣れぬを楽しむと口ごもりつつ 井澤幸恵
- ・揺れゆれてベイブリッジ潜りゆけば五月の海は腕を広く 佐波洋子
- ・歌よみのはしくれいそいそ今日は来ぬロイヤルウイングは白き船体 小野政男
- ・接岸を待つ貨物船散らばれり言の葉ならば釣りたきものを 中川暁子
- ・コンテナのるいるいと積む港湾を見つつベイブリッジの橋下を過ぐ 小島熱子
- ・黒船の泊まりてゐたるあたりよりロイヤルウイング旋回はじむ 荻谷君代
- ・日本の自動車輸出を支へ来し埠頭に夏日美しく差す 塩野崎宏
- ・悲しみの魂を鎮めてなぐ海よ白船にゆくわれも母なり 高橋庚子
- ・湾に浮かびて人笑うなり笑いつつ口あけて食む 高橋みずほ
- ・日本の技術の粋のベイブリッジを船は過ぎゆく会釈しながら 間ルリ
- ・ペナント旗白地に赤をなびかせてわが船はゆく五月の海を 野一色容子
- ・初夏の大栈橋に船出待つ航海終へし父待つところ 藤田絹子
- ・晴れ渡る横浜港の波静か遙かの景の君を思いつ 近藤けいこ

- ・弧りの心の底ひ海があり抱きて六十年横浜に住む 佐久間裕子
- ・テムズまで通ずる潮に憩ひゐる象の鼻見ゆ金之助見ゆ 小林勝
- ・薄曇る空と海との寄りあひてさゆる風に鈍く明るむ 後藤恵一
- ・海鳥の翼の裡のくらぐらしふる里の海ふいに想へば 中川宏子
- ・待ちあわす大栈橋はさまがわりただにキョロキョロ今浦島は 石田幸子
- ・船旅といふにはあらね「ロイヤルウイング」に横浜港内クルージング楽し 清水八千代
- ・船窓よりぷかり栈橋見えくれば名付けし夫の面影迫る 中村規子
- ・日の光波間にきらきら遊び海は太古のいのちをたたう 野崎美智子
- ・わたつみのかなたの雲に入りゆける一つ汽船を見送りてゐる 山本登志枝
- ・長く引く水脈は今日まで生きて来しわが人世のごとく思はる 田谷幸子
- ・男三人歌話を肴に酒酌めば港クルーズ終えてしまえり 長野義和
- ・をちこちの船影かすむうすぐもるけふ東京湾の周遊の恋 早島和子
- ・クレーンのキリンの並ぶ薄曇アフリカからの鉈を持ちつつ 平野久美子
- ・海からの横浜港はビルばかり緑の丘はさっぱり見えず 佐々木千枝子
- ・蝶タイの人あらわれて客船のデッキに深呼吸するひるさがり 渡辺礼比子
- ・海の面に白波立つを眺めて白の淡さは光を持たず 中川佐和子



「ロイヤルウイング」を降りて、パチリ!

- ・うす曇る横浜港を縁どりてしづかに立てる起重機の群 田代弥生
- ・クルーズに向ふ車窓にきらめける五月のみどりあふれむばかり 山田悦子
- ・燈台の白きを見つつ港を出づ飲茶^{ヤブチャ}を食み終え船旅も終ふ 土屋美代子
- ・ただ一基横浜港に立つ風車クルージングの間を動くことなし 千々和久幸

観月会を 開催しました

横浜歌人会恒例の観月会が、桜木駅前ワシントンホテルにある「東天紅」で、次のとおり開催されました。

みなとみらい地区と野毛方面も一望できる、好評な昨年からの会場です。

当日は天候にも恵まれ、遠く箱根越しに富士山も見え、懇親会の頃には月も顔をだしました。

歌会は、朝井恭子さんの司会で円滑に進められました。参加者と第二評者による丁寧な批評が行われ、内容の充実した歌会となりました。

▼観月会の概要▲

○日時 平成24年10月20日(土)

午後2時～午後7時

○会場 東天紅横浜桜木町ワシントンホテル店

○参加者 52名

詠草―観月会

平成24年10月20日(土)―東天紅

- ・今晚の吾には添わぬ望月の南天にあり猫の鳴きいる
長野義和
- ・さつきまでかかりいたりし虹の暈脱ぎたる月が屹立しおり
佐波洋子
- ・シースルーエレベーターを月照らし傍らのひとは秋とつぶやく
中川佐和子
- ・ひとり遊びの散歩なれどもはきはきと歩く性分昼月かかる
工藤こずゑ
- ・御来光拝み心のやすらぎて振りむく天に月皓皓と
林 静峰
- ・ひと月に二度もおおぎし満月をブルームーンと知る
塚田キヌエ
- ・月光に晒され雨戸を鎖すしばし行方不明になるかう
小島熱子
- ・謎かけのやうに雲間に月出でて言問ふ「君の余生は何年」
河北笑子
- ・三代の栄耀町を潤せり人の背見つつ上る月見坂
藤田絹子
- ・喪の家の垣に張りたる蜘蛛の巣を照らす月あり 泣かずにおりぬ
平野久美子
- ・オスプレイ米兵犯罪沖繩の月も激怒の美ら海の島
田之口久司
- ・供えたるだんご犬にも分け与え一人と一匹月の出を待つ
朝井恭子
- ・宙の闇皆既月食ずれながら赤き色をのこしてゆけり
高橋みずほ
- ・秋雨の小止みし空のすき間から包帯の月しまし笑まひぬ
後藤恵市

- ・われのほか見上ぐる者なき満月を褒めてやらねば終電過ぎつ
千々和久幸
- ・秋風の水流のごと去りし後雲切れ月出づゼブラゾー
ンに
伊藤美枝
- ・満ち潮に生まるるいのち月の下秘なる光を浴びて佇む
田代弥生
- ・階段をせわしく下りる頭頂におぼる月見ゆ総裁戦明日
原 昌子
- ・恋の歌詠みたしとふと友の言ふ通夜の帰りの十六夜の道
半澤敏子
- ・仲秋の名月ひと日早く愛づ明日襲来の台風うれひ
日野原典子
- ・月あかり星のあかりの路をゆく覚園寺へのくらやみ参り
小寺敦子
- ・陽を返すのみなる月の静けさよ鳥海山は海にたたる
井澤幸恵
- ・「さげさせて」家々めぐる子らの声ふるきならはし消えし十五夜
長谷川静枝
- ・並び立つ高層ビルの窓毎に秋の灯みちて月冴えわたる
相沢一男
- ・クワワッサンは三日月形の意味と知り昼餉のパンを心して食ぶ
田谷幸子



歌会
厳しく、そして楽しく！



懇親会(乾杯)
窓の向こうは横浜の海です。

- ・対岸の灯のつらなりの背よりふわりとのぼる淡紅の月 渡辺礼比子
- ・一叢の桔梗がかもす安らぎのたゆたひ続く月冴ゆる路 葉山昌子
- ・日盛りの酷暑を孕み茫とあり東の空に浮ける半月 土屋美代子
- ・月生れし原初の空は如何ならむ思へばひかりと同化するわれ 刈谷君代
- ・決められぬこと例ふれば夕餉の菜サツカーのシュート国会法案 長崎厚子
- ・砂色の五日月あり背伸びして旅の手提げをひよいと掛けむか 野一色容子
- ・中国の遠のくと思う日々にして中秋に月餅が王さんより届く 佐久間裕子
- ・リビングに月光入る夜は竹取りの翁と語らむ九人の娘と 中川暁子
- ・朝けより二万歩以上歩きぬし月照るを知る半地下茶房 上木葉葉
- ・月のうさぎを信じし頃の少年が月夜に現わる紳士となりて 間ルリ
- ・限られし命を惜しむ夜の静寂月下美人の白のかがやき 平井郁子

- ・笑ひぬる月読男と思ふまで白々澄める君と歩みぬ 中川宏子
- ・笛の音が角の家より聞こえて近づく『荒城の月』 長野道子
- ・海峡の揺籃の上で語られる月へ渡った男の話 内山汀子
- ・台風の吹き荒れ去りし明けの宙に名月は冴ゆ、惜しや戸を閉つ 清水八千代
- ・夜の八時互ひに月を見つめむと約束交しし十五の秋よ 辰巳日出子
- ・金環食にこころ動かねど屋根に来て夕月見れば亡き息子おもほゆ 松本嘉猷
- ・『月光』を弾きて聴かせてくれし人の面輪の時にたちてくるなり 新田由美子
- ・朱に染まる雲の大峰見てをればふいにわきくるなみだ手強はし 平尾 眞
- ・月光やそこにある椅子そこにいる人夢ならば私のも の 吉野裕之
- ・満月のいや高くありロンドンの選手村にも照らしゆくらむ 西登喜子
- ・新聞の山田五十鈴を切り抜きす何に眠ろうか鳥追いすがた 小野政男
- ・日に異に緑はたけぬ不穩の世に嘎れ声高らか大鴉鳴ける 山中登久子
- ・白々と月中天にかかるとき鳴きぬし虫も声をひそめぬ 本多豊明
- ・吹きふかれ風を招きてゆらゆらと芒の銀を映す満月 木村千鶴子
- ・世界一長命な野毛山のカンガルー会う度思い出す「おふくろ」という言葉 片野浜子
- ・月の出づる方角をまず聴きてをりそれ以上の智恵にはかに湧かぬ 塩野崎宏

「横浜歌人会会報」第一〇五号のご案内

次号の会報では、今年7月に開催した研究会(シンポジウム)を特集します。

今年で第18回となる研究会では、一昨年、昨年に引き続きシンポジウムを開催しました。

テーマは「『いま・ここ』で／を表現すること」。短歌という表現形式の豊かさや可能性を考えるために、文芸以外のジャンルの作家を招き、その方法の特色や意味、また作家としての展望などを伺いながら、議論、交流を行いました。

次号の会報は来年1月の発行予定です。どうぞお楽しみに。

▼シンポジウムの概要▲

- テーマⅡ『いま・ここ』で／を表現すること
- 日時Ⅱ平成24年7月27日(金) 午後6時～午後8時30分
- 会場Ⅱかながわ県民センター三〇一会議室
- シンポジストⅡ
 - ・手嶋尚人さん(建築/東京家政大学准教授、谷中学校運営人)
 - ・伊東純子さん(服飾/unien 主宰)
 - ・樋口賢太郎さん(グラフィックデザイン/すいせい主宰)
- コーディネーターⅡ
 - ・吉野裕之さん(横浜歌人会副代表委員)

●新田由美子

第二歌集『葉漏れ日の下』を出版したのが縁となつて横浜歌人会に入会させて頂いた。元来人づきあいに苦手意識をもち、できる丈そのような機会を持つことを避けてきた私だったので、ひっそりと作歌を続けていくつもりだった。けれども人生には思わぬ出会いやチャンスが巡ってくる。そもそも神戸で生まれ育った私が夫の転勤のためとはいえ、横浜に三十年も住むようになるうとは。まして短歌に捉えられるようになるうとは。

短歌を創り始めて十数年、結社に入つて十年になる年にふとした出会いとはいえ、この伝統ある横浜歌人会の一員になったことは、何か運命のようなものさを感じている。昨秋の観月会でのデビューの折、代表はじめ皆様から温かく迎えて頂けたことが忘れられない。この心温まるシーンを思い出して、一番身近かな歌人会で多くの先輩方の輪に加えて頂ける幸いを感じ、ささやかな一滴をしたたらせられたらと願っている。

自分に限りなく甘い私は怠けてばかりいて、作歌の方はサッパリ上達せずマンネリをかこち、時には顔をそむけたくなることもあるが、そんな時は横浜の街を出て港の空をぼんやり眺めたり、大岡川に舳う小舟のたゆたいに我が身を重ねたりして、思い切り心を遊ばせる。一人住まいの気安さでその日その日の体調と気分に合わせて自由気ままな時を過ごし又元の自分を取り戻していく。そんなことの許される今のこの生活を決して手離したくない。そんな思いにとらわれている昨今である。

●長野道子

あてどなきあくがれかなしあはあはと今日も消
のこる夕明り空 村野次郎『樗風集』

人生の夕明かりの時間を、横浜歌人会に入会させて頂き、歌人会の熱い温かな歌心にふれ、五感が全開、まぶしい気持ちです。

川崎の海近くの火力発電所の住宅で生を享け、多摩川の下流の川岸で小学校時代を過ごし、八歳で病を得て以来、病気が主旋律の生活。横浜市神奈川区の火葬場近くでの中学、高校時代。入院のために出席日数が、ぎりぎり、当然体育の授業は見学。スポーツには無縁。けれどいつも、体育会系に見られるのは、なぜかしら？ ピアノの道を志すも病気で断念、でも本当の理由は、「あなた程度は星の数ほど」と、言う師の言葉。大学時代は、川崎の梨畑の中に住み国際法を学ぶものの、現在の生活とは一切無縁。

短歌に出会い「短歌人」に入会、グループ誌に加わったものの、蕾にもならず、八年で挫折。結婚と同時に横浜市中区に転居。病身を忘れて豎琴とリコーダーのアンサンブルに入り夢中に。しかし・・・つかの間で全国で八千人という難病を持つ身になり、突然、歌心が湧き、野崎美智子先生の紹介で、香蘭短歌会に。余命幾ばくもないと、憐れんだ夫も同情入会・・・のはずが、なんと、波乱含みながらも、私は小康を得て夫は、ミュージズの虜に。今や横浜歌人会事務局に関わり、美しかった（？）リビングは、落花狼籍そのまま。

私の願いは、夫への相聞歌を残すこと。こんな私ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

●荒川とよ子

神奈川の北西部に位置する羽沢町。

この町に私は四十年の歳月をすごしています。初めて訪れた人の多くは農地の広さに驚くことでしょう。こんもりとした雑木林や何十年も生き続けたと思われる竹藪がある。現代文化の象徴である「みんとみらい地区」から車で三十分はなれた羽沢町にこれだけ多くの自然環境が残っている事にどこかノスタルジーを感じるのではないのでしょうか。

「横浜キャベツ」の生産のそのほとんどが羽沢町の畑で収穫されたものです。江戸時代の記録によると羽沢町は水田地帯よりは畑作地帯であり石高だけでなく二百六一石あったと伝えられています。現在でもその当時の人々が収穫を祈ったと謂われる農耕信仰文化財が羽沢の各地に点在しています。なかでも横浜市の文化財とされている庚申堂は江戸時代に建立された石像で三猿の上に六本の慈手をかけた珍しい御姿で現代の世も農に勤しむ人々や大地の作り出す農産物の豊穰を見守っているように思われます。

曲りくねった道の辺に道祖神、野佛、馬頭観音、地神塔等見受けられ自然のままに地元の人々により保存されて野の花が供えられ周囲の雑草もいつも刈られている。はるか遠くの牧場より乳牛の鳴き声の聞こえるのどかさ。浮かんで見えるランドマークタワーや新横浜のホテルに明かりが灯る頃沈む夕日に畑一面透き通った光に被われます。近代化の進む横浜のオアシス。「畑を見にきませんか」と歌友を誘ひよるこばれています。

会員歌集紹介

中川宏子歌集『右耳の鳩』

高澤志帆

『右耳の鳩』は「未来」に所属する中川宏子さんの第二歌集。前作『いまあじゆ』に続く六年ほどの作品が収められている。

「この時期は、母の入院、介護、母の逝去に加えて、息子の受験、夫や私の健康不良など様々なことが起こり、嵐のような現実には面をせざるを得なかった」と後記にあるように、家族を題材にした作品にいくつも胸に留まるものがある。

母の前にマスクはづさぬ兄嫁にありがとうと言ふ 声はさざなみ

「ありがとう」と言うのは母を見舞ってくれたことへの謝意だろうか。それでも母の前でマスクを外さないことに思うところがある。その思いが声の微細な震えとなって出てしまっているのではないのか。繊細な作者の気遣いが感じられる。

もう無理はしなくていいよとメールする、わが子の顔は亡兄に似てきた
離れゆく子の指白く象牙めき明日へと繋がる細

き生なり
ローソンへ行く道すがらローソンゆ帰る息子と
遭ふ笑ひあひつづ

息子の受験と向き合い、その旅立ちに、亡くなった家族たちの生の引き継ぎを見る。情愛のある歌だ。

次々にメールをすると言ふ人ゆ次々に来る返事を開く

文句を言いつつすぐ返信する夫におかしみとさり気ない愛情を感じる。家族を詠うことで著者の生が浮き彫りになる。その生を読者は己に引付けて読むことができる。喪失と情愛と生を湛えた一冊である。

発行 行 Ⅱ 砂子屋書房

〒101-0047 東京都千代田区内神田三・四

七 電話 03-3256-4708

発行日 Ⅱ 二〇一一年六月二九日

定 価 Ⅱ 二〇〇〇円 (税別)

*

綿貫昭三歌集『思ひ出の樹』

「会社勤めをやめて十年になった。第一歌集の『貝桜』を上梓して既に三年が経過したが二回目目の命を貰った今、何となく過ごしてしまった人生が惜しいと思われこの頃である。

現在、私は国内を歩いて自然との出会いを深め、それを写真に収め、その写真を歌に詠み込んでいる。いわゆる写真とのコラボレーションである。これが

良いか悪いかは別として、そんなまねごとをしたいと思うようになった。そして手作りの写真歌集『思ひ出の樹』を作成してみた。」
(「あとがき」より)

【自選十首】

花を摘む妻は胡蝶を帽に留め春爛漫の天使となれり

かなしみは夜明けと共に来たりけり娘を嫁がせる朝になりて

剃りし髪夕べになればぞりぞりと生きてゐるのだこの私も

頬寄せてカメラに見入る四つの眼ふたりで未来覗いてをりぬ

思ひ出の樹にも芽吹き季来たる結婚写真に写る柿の木

着る物は粗末なれども敗戦の写真の子らは屈託もなし

注連飾り賑はふ町の真ん中をぼてぼて行けば正月近し

吾が庭の草花野菜濡らしつつ六月の雨ごんごと降る

ちちのみの父を恋ふればわが喉の奥より出でつ亡き父の声

からんころんコトンと音を立てにけり結婚指輪トイレに落ちて

問い合わせ Ⅱ 著者

Ⅱ 241-0047 横浜市旭区鶴ヶ峰二・五四

一 綿貫昭三

発行日 Ⅱ 二〇一二年一月十一日



新春歌会：活発な意見交換が行われました。

平成24年度 総会・新春歌会・新年会を開催しました――

平成24年度の横浜歌人会総会・新春歌会・新年会を、1月29日に、「馬車道十番館」で開催しました。午後1時から総会に始まり7時の新年会のお開きまで、内容の濃い一日となりました。

【総会】

総会は、83人の参加（委任状含む）で、藤田絹子さんを議長に選出し、議事を進めました。

前年度の事業報告、決算報告などの承認後、新たな運営委員を選出しました。その後、運営委員の互選により、千々和久幸さんが前期に引き続き代表委員に選出されました（同時に副代表委員が選出され、代表委員により事務局長が任命されました）。また、運営委員会から今年度の事業計画、予算案が提案され、すべて提案どおりに承認されました。

【新春歌会】

参加者は45名ほど。運営委員・高橋

みずほさんの司会で進めました。

一昨年から実施している、ふたりの評者を立て、一首一首にていねいに批評を行う方法（横浜方式?）も定着しました。また、最後に自由な議論ができる時間も設けました。

【新年会】

桜井健司さんの音頭で乾杯。多くの参加者にスピーチをお願いし、お話を聞きながら、お料理とお酒を楽しみました。最後は、いつものように横浜市歌をうたい、閉会となりました。

*平成24・25年度運営委員

佐波洋子（かりん）、高尾文子（かりん）、高橋みずほ、田谷幸子（醍醐）、千々和久幸（香蘭）「代表委員」、角宮悦子（はな）、中川佐和子（未来）、長野義和（香蘭）「事務局長」、間ルリ（短歌人）、平野久美子（短歌人）「副代表委員」、森藍火（天象）山本登志枝、結城千賀子（表現）、吉野裕之「副代表委員」

◇新会員のご紹介

- ・浦崎真子さん（ことばの楽園）
推薦者〓吉野裕之、高橋みずほ
 - ・下田総子さん（沙羅）
推薦者〓伊藤宏見、林 静峰
 - ・長崎厚子さん（純林）
推薦者〓塩野崎宏、深志聖子
 - ・平尾 眞さん（日本歌人）
推薦者〓後藤恵一、朝井恭子
- 入会については、横浜歌人会会則をご覧ください。（ホームページでもご覧いただけます。）
ご一報ください。

◇告知板

会員の歌集・歌書をホームページや会報でご案内します。出版時に会員の方で、二〇一一年二月一日以降に出版された歌集・歌書が対象となります。対象となる方は、左記事務局宛てにご一報ください。

横浜歌人会会報第一〇四号

発行日 二〇一二年十二月十日

編集人 長野 義和

発行人 千々和久幸

発行所 横浜歌人会

URL <http://yokohama-kk.art.coocan.jp/>

振替口座 00200-5-77630

制作アトリエ云／印刷野崎印刷紙器株式会社

このファイルはホームページ配布版のため、奥付の内容が印刷版のものとは異なります。